

## 第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	小山保育園（2回目受審）
経営主体(法人等)	社会福祉法人山百合会
対象サービス	認可保育所
事業所住所等	〒226-0023 横浜市緑区小山町292
設立年月日	昭和55年5月1日
評価実施期間	平成28年5月 ～ 28年9月
公表年月	平成28年10月
評価機関名	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま
評価項目	横浜市板

### 総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）

#### 【施設の概要】

小山保育園は、JR横浜線および横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅から歩いて15分ほどの小高い丘の上にあります。周辺には、畑や竹林、住宅などがあり、緑豊かな自然に恵まれています。

小山保育園は昭和55年（1980年）4月に社会福祉法人山百合会によって開設されました。運営法人は他に緑区内に1園、港北区に4園保育園を運営しています。

園舎は斜面に建てられていて、2棟に分かれています。斜面を利用した広々とした園庭にはたくさんの遊具が設置されています。園庭には、実のなる木がたくさん植えられ、夏には心地よい木陰を作っています。また、近くには広い園の畑があります。

定員は100名、開園時間は平日（月曜日～金曜日）は7：00～20：00、土曜日は7：00～18：30です。

園目標として「よく食べ、よく寝、よく遊ぶ子」「強く、たくましく、思いやりのある子」「自然の中で、のびのびと遊べる子」を掲げています。

#### ◆高く評価できる点

##### 1、豊かな自然環境の中、子どもたちはたくさんのことを学び成長しています

園の周囲には竹林や畑が広がり、豊かな自然に恵まれています。園庭には、ミカンやイチヨウなど実のなる木がたくさん植えられ、片隅では乳児が野菜や花を育てています。また、カブトムシやセミ、コガネムシなどの虫もいて、子どもたちの楽しみとなっています。観察時にも乳児がセミの声を聞き分けたり、5歳児が園庭で捕まえたカブトムシの世話をしたり、観察して図鑑で調べたりする姿をみることができました。

近くにある園の畑は広く、幼児が野菜や季節の花を育てています。サツマイモやナス、トマト、スイカなどたくさんの野菜を育て、子どもたちは生長の様子を観察し、収穫し、調理して食べています。また、梅やブルーベリー、ミカンなども収穫し、梅ジュースや梅干し、ジャム作りなどの食育を季節ごとに行っています。茶摘みやタケノコ掘りなども経験します。

園庭は斜面になっていて、ローラー滑り台やロッククライミング、アスレチック、砂場などの遊具が設置されています。子どもたちは、斜面についた階段を上り下りし、ロッククライミングを楽しみ、遊びながら自然に身体を鍛えています。また、砂場で、水を流して水路作りをしたり、泥んこ遊びを楽しんだりしています。

このように、子どもたちは自然とのふれあいの中で、風や雲や水、草や木等で季節の移り変わりを肌で味わい、旬の食材に触れて季節の味覚を知り、木の実や葉等を用いた製作で感性を養い、園庭遊びで身体

能力を高めています。子どもたちは、自然と関わる中、自分たちで遊びを見つけ、皆で工夫して発展させることで、友達との関わり方や科学する目を養い、成長しています。

## 2、保育士は一人一人を大切に保育にあたっていて、子どもたちに思いやりの心が育っています

保育士は、園の理念の実現に向け、子ども一人一人に寄り添い、子どもの思いの把握に努めています。把握した子どもの思いは職員会議で話し合い、一人一人の目標として個別指導計画に落とし込み、保育に活かしています。職員会議やクラス会議では子ども一人一人の様子について情報交換し共有しています。

保育士は、子ども一人一人の性格や好みをよく把握し、子どもの遊ぶ様子を見守り、子どもに合わせた声掛けをしています。集団活動に上手く入れない子どもには声掛けをして誘いますが、子どもが興味を示さなかった場合には、その子どもに合わせた環境設定を工夫するなどしています。子どもは、他の子どもの活動の様子を見ながら好きな遊びをし、子ども同士で声をかけ合い関わる中で、気持ちが活動に向いていき自然な形で活動に参加することができます。保育士もなぜ参加できないかを周りの子どもに代弁し、子ども同士の関わりを後押ししています。

このような保育士の姿勢は子どもたちにも確実に伝わっていて、子どもたちはお互いの良さも悪さもそれぞれの個性として認めています。子どもたちは、遊びの中で自然にお互いの良さを引き出し、お互いの足りない部分を補い合っていて、思いやりの心が育っています。

## 3、地域の施設として、地域に根付いています

開園から40年近く、園からはたくさんの保護者や卒園生が巣立ち、地域で活躍しています。地域との関わりは深く、隣接する市営住宅の建て替えの際には委員会に参加して広場の使用について話し合ったり、横浜市立山下小学校の学童の設立に関わったりしています。

また、地域に対し、園庭開放や育児相談、育児講座（夏野菜収穫、お芋堀り、陶芸遊び）などの子育て支援を行っています。

地域自治会に参加し地域自治会のパトロールに園に立ち寄ってもらう、園内の掲示板に地域の小学校や障がい者施設のコーナーを設けるなど地域との関係を大切にしています。地域の畑でブルーベリー狩りをさせてもらったり、地域の農家に園の畑についてのアドバイスをもらったり、近隣のグループホームと日常的に交流したりと、子どもたちも地域と様々な形で交流しています。

このように、園は地域の施設として地域とともに発展し、地域に根付いています。

### ◆改善や工夫が望まれる点

#### 1、職員個々の自己評価を園としての自己評価につなげることが期待されます

保育士は、年度末に自分自身の業務についての自己評価を行い、その結果を次年度に活かしています。また、年間の運営に関する振り返りをクラス会議やリーダー会議で行っています。年度末には保護者アンケートを実施して振り返り、結果を保護者にフィードバックしています。

ただし、このような素地が出来上がっているにもかかわらず、園としての自己評価は行われていません。今後は園としての自己評価を管理層がまとめ、園が抱える課題や今後の方向性について職員間で共有することが期待されます。

#### 2、クラス間の情報共有を深めるためのさらなる工夫が期待されます

園は斜面に建設されている関係から2棟が3層構造になっていて、隣り合っていない保育室については、活動の様子が伝わりにくい構造となっています。

園としても、課題ととらえていて、乳児、幼児が合同で過ごす時間を作ったり、異年齢が交流できる行事を意図的に増やしています。職員会議や申し送りノート等を用い情報共有しています。園長、主任が定期的にラウンドするとともに、保育士はお互いに声をかけ合い、細かな活動内容を確認し、連携を図っています。

ただし、園の構造の問題もあり、クラス内の活動の様子までは目に届きにくい状況にあることが、観察時にも感じられました。積極的にクラス間で交流の機会を作るなど、さらなる工夫が期待されます。

### 評価領域ごとの特記事項

#### 1.人権の尊重

- ・園目標は「よく食べ、よく寝、よく遊ぶ子」「強く、たくましく、思いやりのある子」「自然の中で、のびのびと遊べる子」で、利用者本人を尊重したものになっています。
- ・職員会議などで子どもへの接し方や言葉掛けについて話し合い、職員間で注意し合える関係を作っています。保育士は子どもの目線に合わせて穏やかに優しく話しかけています。保育士は子どもの言葉に耳を傾け、子どもに問いかけたり言葉を足したりして、子どもの言葉を引き出し、子どもの気持ちを把握するよう努めています。
- ・虐待防止マニュアルが作成されており、全職員が虐待については周知しています。虐待が疑われる場合には、園長・主任が窓口になって横浜市北部児童相談所などの機関に連絡しています。
- ・個人情報管理規程があり、全職員に周知しています。保護者に対しては、年度初めに個人情報の取り扱いについての基本方針を配布し、同意書を受け取っています。ホームページなどに子どもの写真などを掲載する場合には、その都度個別に確認しています。

#### 2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・0～2歳児は個別指導計画を作成しています。3～5歳児については、個別目標を立てています。
- ・園庭には実のなる木や季節の草花がたくさん植えられ、カブトムシなどの虫もいて、子どもが季節の自然と親しむことができます。近くには園の畑があり、子どもたちが季節の野菜や花、果物を育てています。飼育や食育、製作など、自然の恵みを保育の様々な場面で活かしています。
- ・園庭には、長いローラー滑り台やアスレチック、鉄棒、ロッククライミングなどが設置されていて、遊びながら運動能力を高めることができます。体操やリズム遊び、室内でのトンネルやウレタンブロックを用いた遊びなど、身体を動かす活動を多く取り入れています。
- ・2棟3層構造となっているため、それぞれのクラスの様子が分かりにくい構造になっていますが、朝夕の自由遊びや園庭遊びの時に異年齢児が交流しています。また、散歩や誕生会等の行事、お買い物ごっこや異年齢での食事、5歳児が1・2歳児のお世話に行くなど、異年齢児が交流できる機会を多く設けています。
- ・タケノコ掘りや芋掘り、季節の野菜の収穫、梅干作りやジャム作り、茶摘みなどの活動を通し、子どもたちが季節の食材に触れる機会を作っています。
- ・旬の食材を用い季節に合った和食中心の献立となっています。野菜を多く使い、だしをたくさん使って子どもが食べやすいような優しい味付けとなっています。おやつも手作りで、朝のおやつは野菜、午後のおやつにも野菜を用いています。また、レストランごっこ、お弁当パーティ、バイキング、ピクニック給食と子どもが食を楽しめるような機会を作っています。
- ・子どもの送迎時には、保護者とのコミュニケーションに努め、その日の子どもの様子を伝えていきます。乳児は毎日、幼児は必要時に連絡帳を用い、保護者と情報交換しています。年1回、個人面談を行っています。個人面談は、保護者の要望があればいつでも応じます。
- ・保護者会があり、交流会、親子遠足、ふれあい祭り等の行事の主催、駐車場の管理等を行っています。

<p><b>3.サービスマネジメントシステムの確立</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各年齢ごとに月間指導計画、週案を作成しています。月案や週案を作成する時には、職員会議などで個々の子どもの状況を話し合っ、その情報を共有しながら作成しています。</li> <li>職員は障がいのある子どもについても、その個性を認める保育をしています。子ども同士も、お互いにその個性を認めるような様子が見られます。</li> <li>健康管理、衛生管理、安全管理、事故対応などの各種マニュアルを整備し、職員に周知しています。</li> <li>マニュアルに基づき保育士が子どもの視診を行っています。看護師は一日2回保育室を見て回り、子どもの健康状態を確認し保育士の相談にのっています。</li> <li>マニュアルを更新した時には、職員会議で報告しています。マニュアルを保育室に置くとともに、トイレや保育室の必要な場所に掲示し、その場で確認できるようにしています。</li> <li>毎月、地震や火災を想定した避難訓練を実施しています。炊き出し訓練も行っています。</li> </ul>
<p><b>4.地域との交流・連携</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援事業として、一時保育、園庭開放、交流保育（毎月のお誕生会、運動会）などを行っています。また、育児講座を年3回実施しています。育児相談のテーマとしては、造形遊び、夏野菜収穫、陶芸遊び、お芋掘りなどを実施しています。</li> <li>毎週月、火、木、金の10時から11時半に育児相談を受け付けていて、実績もあります。</li> <li>自治会長等とコミュニケーションを図り、行事の際、子どもが広場（プレイロット）を利用するにあたり、声をかけたり出向いたりしています。</li> <li>和太鼓やハンドベルを横浜市立山下小学校に貸し出しています。</li> <li>地域の広場を使用した際には、掃除をするなど地域と友好的な関係を築くために努めています。</li> <li>子どもたちは散歩で地域住民と挨拶や会話を交わしています。また、地域の園芸店に畑に植える苗を買いに行っています。幼児は、近隣のブルーベリー畑でブルーベリー摘みをしています。</li> <li>近隣のグループホームのお年寄りとは、行事に招待したり子どもたちが遊びに行ったりして交流しています。</li> </ul>
<p><b>5.運営上の透明性の確保と継続性</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営法人の新人研修で保育理念のDVDを見たり、職員会議でも保育の理念や基本方針を話し合っています。また、全職員を対象とした自己評価の項目の中に、保育理念の理解度も入っており、全職員が園の基本方針を理解する仕組みが作られています。</li> <li>職員の倫理規定、就業規則等で職員が不正な行為を行わないように明文化され、周知されています。</li> <li>園の周囲には様々な樹木が植わっており、園は自然の緑に囲まれています。さらに園庭にみかん、柿、ゆずなどの樹木を植えたり、プランターに様々な草木を植えるなどして、緑化に取り組んでいます。</li> <li>重要な園の課題については、職員とは職員会議、リーダー会議などで、経過報告をして、職員理解を求めています。保護者に対しては保護者懇談会を通して保護者との間で意見交換を行っています。</li> <li>園長は運営法人の系列園の園長会に出席したり、緑区園長会などを通して、事業運営に影響のある情報を収集しており、園に關係する重要な情報については、リーダー会議や職員会議等で共有しています。</li> <li>運営法人では、平成28年度までの5年間の中期計画、29年度から34年度まで</li> </ul>

	<p>の中期計画を策定しています。</p>
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運営法人が必要な人材をチェックし、多様な方法で人材を募集し、必要な人材を補充しています。</li> <li>• 非常勤職員の中から、常勤職員にふさわしい職員については、常勤職員として採用する仕組みをもっています。また、常勤職員が、子育てなどで、毎日の勤務が難しくなったときには、非常勤職員に職系転換を図るなど、勤務しやすい仕組みを作っています。</li> <li>• 運営法人では、内部研修の年間計画を作成しています。これには職員は積極的に参加することが求められています。外部の研修会にも職員は積極的に参加しています。</li> <li>• 月間指導計画や週案は、必ず振り返りが行われており、記録に残されています。これらの振り返りは、指導計画の狙いとの関連づけで行われています。</li> <li>• 年度末には、自分たちの自己評価を踏まえて、年間の運営に関する振り返りをクラス会議やリーダー会議で行っています。</li> <li>• 保育園として、園の理念や方針、保育課程に沿って自己評価は行っていません。職員の自己評価と保護者のアンケートという他者評価があり、園としての自己評価を行う素地ができあがっています。これらを統合して園としての自己評価が行われることが期待されます。</li> </ul>